

小学校では、いつ、どのように、“書く”指導を始めるのか。小学校の教師としての立場からその指導法を問う。

小学校の教師としても、従来の“読み書き並行”の考え方の誤り、両者の価値の相違などについて、十分に理解していただきたいと思えます。

“読み”は理解行為であるのに対し、“書き”は表現行為です。漢字について理解が十分になされていないのに、それを表現するということは無意味です。

ある漢字が、読めて、意味や使い方もよくわかるようになって、初めて、その漢字を用いて表現しようという意識が起こるのであって、そうあってこそ“書く”ことの意味があるのです。

だから、書く学習をさせるには、その前に、その漢字の読み、意味、使い方が十分に理解されていなくてはなりません。したがって、その字形についての認識も、ある程度できていなければなりません。一点一画、手本を見なければ書けないような状態で書かせたのでは、いくら時間をかけて練習させても、うまく書けるようにならないのが当たり前です。

その漢字が、教科書やその他の教材にたびたび提出され、読み方、意味、使い方がよくわかり、目をつむればその字形が頭の中にはっきりと描けるようになった時が、“書く”指導を始める最も良い時期だ、と考えます。

頭の中には一瞬で描ける漢字を、実際にはどこから、どういう順序で書くかを教えるだけですから、子供も、一点一画手本を引き比べる必要もなく、いっぺんで整った字を書くことができます。